

「現役世代のための『まなぶ！連続講座』」第4回講義予告

8月27日(土)13時30分～ 場所：まなびあむ3階視聴覚室

気候危機の深刻化に伴い、温室効果ガス排出を抑制する「緩和策」に加えて、既に顕在化している深刻な影響に対処するための「適応策」の必要性も最近認識されつつあります。この講義では、京都気候変動適応センターの取り組みを紹介し、私たちが日常生活の場で気候変動問題と向き合うにあたっての視点や視角について、共に考える機会を提供します。

# テーマ：気候危機の中、私たちは 足元で何にどう取り組むのか

講師：総合地球環境学研究所

研究基盤国際センター

研究員 一原 雅子 氏

講師の一原雅子氏から受講者の皆さんへメッセージをいただきました。

皆様初めまして。京都気候変動適応センターの一原と申します。近年の猛暑や自然災害の増加で、気候危機を身近に感じている方も多いかもかもしれません。この危機に対応するにあたり、私たちが日々の生活の中でできることについて、この日は「適応」という観点からも、一緒に考えてまいりましょう。



## 講義の主な項目

- ・気候危機の現状について
- ・人間社会の在り方が、今後の気候危機の行く末に大きく関わる
- ・緩和と適応
- ・長期的観点から適応を考える
- ・私たちが日々の生活でできること

## 講師プロフィール

京都大学法学部、同大学院、東京大学大学院、最高裁事務総局勤務等を経て、2021年から現職。主な論文『国が国民を気候変動の脅威から保護するための適切な措置を講じる法的義務の肯否』、『Urgenda Foundation v. State of the Netherland 最高裁判決の意義とその背景 ～類似訴訟との比較～』など

## 「総合地球環境学研究所」(地球研)とは

人類共通の課題である地球環境問題解決への貢献をめざし2001年創設。2004年には、大学共同利用機関法人「人間文化研究機構」の構成員に。人文学・社会科学・自然科学の文理融合による学際研究に加え、社会と連携して問題解決をめざす“超学際的アプローチ”を含めて、総合知としての「総合地球環境学」を推進。所長：山極壽一氏。所在地：京都市北区上賀茂本山

「京都気候変動適応センター」は、2021年7月、地球研・京都府・京都市の3者が締結した「京都気候変動適応センターの設置に関する協定」に基づき設立。気候変動の影響や適応策に関する情報収取・発信拠点として活動を展開中。所長：安成哲三氏

受講のお申し込みは、8月25日(木)までにまなびあむへお電話(64-4060)ください。